

日本学論叢Ⅳ（日本語研修コース修了小論文選集）

日本学論叢Ⅳ

（日本語研修コース修了小論文選集）

北京日本学研究中心

一九九三・北京日本学研究中心

75.313.07-036

育出版社

人民教育出版社

日本学論叢刊

日本学論叢刊

日本学論叢刊

日本学論叢刊

日本学論叢刊

日 本 学 論 叢 IV

(日本語研修コース修了小論文選集)

北京日本学研究センター

人民教育出版社

北京日本学研究センター

主 任 李 徳

主任教授 池田 温

主任代行 李 書成

副 主 任 陳 海良

編集委員会

中国側: 李 書成 (委員長) 周 維宏 李 慶祥 唐 磊 張 龍妹

日本側: 大谷通順 (委員長) 犬飼公之 山野正彦 柄澤行雄 飯野清士 市瀬智紀

(京) 新登字113号

日本学论丛Ⅳ

北京日本学研究中心

人民教育出版社出版

新华书店总店科技发行所发行经销

北 京 印 刷 一 厂 印 装

开本787×1092 1/16 印张13.75 字数304,000

1993年8月第1版 1993年8月第1次印刷

印数 1—3,000

ISBN 7-107-11053-5

G·3119 定价10.00元

まえがき

1989年～1990年の3年間に、のべ90名の日本語教師が中国各地の大学から北京日本学研究中心に集まり、日本語研修コースにおいて各期1年の研修を行なった。本論文集は、これら研修生が提出した計85篇の修了小論文から優秀作24篇を選んだものである。そのうちわけは、88級（4期生）4篇、89級（5期生）11篇、90級（6期生）9篇となっている。

研修生のなかには、これまでに論文作成の経験を十分に積んでいない者も少なくない。そうでなくとも短い研修期間中の、しかも密に組まれた授業のあいまに、テーマの選定、資料の収集、問題の考察および論文の執筆を行なうことは容易なことではない。しかし、彼らの大多数は不利な条件を熱心さと真摯さで克服し、みごとにそれを成し遂げた。その努力に敬意を表しつつ、本論文集を刊行する。

北京日本学研究中心

編集委員会

1993年1月31日

目 次

まえがき

1. 中国人の日本語学習者は母語からどのような影響を受けているか……常 錫勇 (1)
2. 条件表現「ば、と、たら、なら」について……張 際宇 (9)
3. 対応動詞の区別
 - 「X—かる」と「X—ける」形の動詞——……王 慧琴 (19)
4. 中国人の日本語アクセントの傾向……盛 凱 (26)
5. 中日両国語の被動表現の比較
 - 中国語の意味上の受身文をめぐって——……姜 淑敏 (33)
6. 日本語の中の片仮名言葉の特殊用法について……邢 志明 (47)
7. 「もののあわれ」の中国語訳について ……羅 明輝 (55)
8. 中国語の「給」と日本語の「てあげる」 ……鄭 愛莉 (67)
9. 中国の日本語教育についての評価法
 - 日本語標準化テストをめざす——……孫 玉林 (75)
10. 森鷗外と歴史小説……金 成花 (85)
11. 井伏鱒二と『黒い雨』
 - 小説から読んだ原爆の残酷さによって平和の貴さを知る——
- ……張 昕 (93)
12. 『蜻蛉日記』における「つれなし」……潘 立波 (103)
13. 島崎藤村と『新生』について
 - 作家の実生活と作品のある曖昧な関係——……田 姝 (113)
14. 現代日本女性の職場における男女格差
 - 女性は本当に解放されたか——……張 芸文 (121)
15. 日本人の「交友」様式について
 - 中国との相違点——……劉 曉娟 (129)
16. 対象語をめぐって……謝 家貴 (137)
17. 否定疑問文をめぐって
 - 「ではないか」を中心に——……李 增梅 (145)
18. 「見える」「見られる」「見ることができる」について ……李 金蓮 (153)
19. 『竹取物語』の矛盾構造とかぐや姫の心理描写 ……曹 玉玲 (161)
20. 『竹取物語』の悲劇の結尾について
 - 『竹姫』の結尾と対照しながら——……孫 中元 (169)
21. 樋口一葉の恋愛観
 - その作品をめぐって——……盧 彬 (177)

22. 芥川と漢文学.....	任 常毅 (183)
23. 差別用語から見た日本社会.....	黄 慧美 (193)
24. 構文上に現れた日本人の文化意識の流れ ——「自己主張の放棄」について——.....	錢 樹倫 (205)

中国人の日本語学習者は母語からどのような影響を受けているか

常 錫 勇

大人になってから始めて外国語を習うと必ず母語から多かれ少なかれ影響を受けるものである。中日両国語では類似した所が多いので中国人の日本語学習者はとくにそうである。次にそのような影響で作られた例をいくつか挙げて検討したい。

Ⅰ「的」に因る誤用

日本語で一番多く使われている助詞は、「の」だそうであるが、中国語の文章で使用率が一番高いのは「的」である。「的」はすべてではないが、「の」と訳される場合が多い。そこで「的」にぶつかったら適否を検討せず一様に「の」と訳して間違えた例がよく見られる。たとえば、

1. 这是美丽的花。
これは美しいの花である。(の: ×)
2. 我吃饭的时候……
私はご飯を食べるの時…(の: ×)
3. 这是个简单的问题。
これは簡単の問題である。(の: ×; →な)
4. 她是位很亲切的人。
彼女はとても親切の人である。(の: ×; →な)
5. 举具体的例子予以说明。
具体の例を挙げて説明する。(の: ×; →的な)

中国語では修飾される名詞の前に「的」を入れれば名詞でも形容詞でも動詞でも修飾成分になることができる。たとえば、

日文的教科书／日本語の教科書

我的笔／私の万年筆

美丽的花／美しい花

读的书、走的路／読んだ本、歩いた道

上の例を見れば分るように、中国語と日本語では修飾成分が両方とも名詞、代名詞であるならば、「的」を「の」と訳せば良いのであるが、それ以外はほとんど出来ない。次の文では「的」を「の」に訳すのは無理である。

一、「的」の前が名詞であるが、日本語になおすとサ変動詞に変る場合

6. 向国旗行注目礼的战士。
国旗に目礼するの兵士。(の: ×;)

7. 午后给你打电话的人是小李。

午後お電話するの人は李君である。(の: ×;)

8. 在街头发表演说的政治家。

街頭で演説するの政治家。(の: ×;)

9. 用针刺麻醉做手术的医生。

ハリ麻醉で手術するのお医者さん。(の: ×;)

10. 星期三下午召开会议的通知。

水曜日の午後、会議するの通知。(の: ×;)

二、中国語でも日本語でも動詞である場合

11. 回答的问题。

答えたの問題。(の: ×;)

12. 聚拢来的孩子们。

集まってきたの子供たち。(の: ×;)

13. 若是我能做到的事尽力帮忙。

私にできるのことならなんでもいたします。(の: ×;)

14. 机场挤满了迎接的人和送行的人。

空港は出迎えるの人や見送るの人でいっぱいです。(の: ×;)

15. 登场的人是女主人公。

登場したの人は女主人公です。(の: ×;)

三、中国語では動詞であるが、日本語になおすと、「する」をつけても動詞になれず 関連動詞にたよってこそあとの名詞を修飾できる場合

16. 贿赂的对象是局长。

賄賂の対象は局長です。(の: × → をおくる)

17. 群众关心的问题。

大衆が関心の問題。(の: ×; → をよせる)

18. 地震的第二天。

地震の翌日。(の: ×; → がおこった)

19. 街上感冒的人很多。

町では感冒の人が多いです。(の: ×; → にかかった)

20. 自信的一生。

自信の一生。(の: ×; → にみちた)

四、中国語では形容詞であるが、日本語になおすと次の三つの場合がある。

(I) 形容動詞である場合

21. 简单的问题。

簡単の問題。(の: ×; → な)

22. 亲切的人。

親切の人。(の: ×; → な)

23. 伟大的民族。

偉大の民族。(の: ×; →な)

24. 勇敢の解放軍。

勇敢の解放軍。(の: ×; →な)

(II) 名詞である場合

25. 具体的例子。

具体の例。(の: ×; →的な)

26. 徹底的の革命精神。

徹底的の革命精神。(の: ×; →的な)

27. 采取積極的態度。

積極の態度をとります。(の: ×; →的な)

28. 進歩的思想。

進歩の思想。(の: ×; →的な)

(III) サ変動詞である場合

29. 安定的生活。

安定の(な)生活。(の(な): ×; →した)

30. 矛盾的心情。

矛盾の(な)気持。(の(な): ×; →した)

31. 混乱的状态。

混乱の(な)状態。(の(な): ×; →した)

32. 緊張的形勢。

緊張の(な)情勢。(の(な): ×; →した)

33. 腐敗的政治。

腐敗の(な)政治。(の(な): ×; →した)

つまり「的」の訳し方は、「的」の前の語が日本語になおした時どういう品詞に変わるかによって決まる。いつも、「の」との対応関係だと思って訳しては誤訳になるわけである。

I. 「在」に因る誤用

日本語では「に」と「で」で場所を表すように、中国語の「在」も同じ役目を果している。日本語では「に」が「存在の場所」、「で」が「動作の行われる場所」を表すのと違って、中国語では「存在の場所」も、「動作の行われる場所」もどちらも「在」で表すのである。たとえば、

34. 学生在教室里。

学生は教室にいる。

35. 学生在教室里读书。

学生は教室で本を読む。

だが、「在」はどんな場合に「に」或いは「で」に訳すのか、ちょっと複雑な文になると間違いがよく出て来る。たとえば、

36. 妹妹总是在妈妈面前撒娇。

妹はいつも母の前に甘えてばかりいる。(に: ×; →で)

37. 在诊室、值班大夫在给一个患者看病。

診察室に、当番医が一人の患者を診察していた。(に: ×; →で)

38. 不准在这个池塘里游泳。

この池に泳いではいけません。(に: ×; →で)

39. 他在黑板上写字。

彼は黒板で字を書いている。(で: ×; →に)

40. 她在手帕上绣花。

彼女はハンカチで刺しゅうをしている。(で: ×; →に)

36、37、38では述語が動作動詞であるから「で」を使うべきである。39、40では、述語が動詞であるから「で」を使っていいと思われたのであろう。「黒板」と「ハンカチ」は「動作の行われる場所」ではなく、動作の結果が残されて存在するところなので「に」を使うのが正しいのである。上の誤用例を念頭に置きながら次の「在」の訳し方が正しいかどうかを考量しよう。

41. 一只猫一动不动地坐在桌子底下。

猫はテーブルの下でじっと坐っていた。(で: ×; →に)

42. 我们默不作声地站在旁边。

私達はひとこともなく、そばで立っていた。(で: ×; →に)

43. 全家人开始住在一间又暗又小的屋子里。

暗くて小さいひとつの部屋で、家族全員が住み始めた。(で: ×; →に)

44. 与其整天闷在家里，不如天气好的日子……

家で閉じこもっているより、天気の良い日は…。(で: ×; →に)

述語が完全な動作動詞であるから「で」を使うのが間違いないと思ったのであろう。ところが、松下大三郎氏の「標準日本口語法」によれば「坐る」「立つ」「住む」「閉じこもる」などのような依拠性のある動詞は必ず「に」を通じて、「テーブルの下」「そば」「へや」「家」など、何物かに依拠して行われる。だから上例の「在」は「に」と訳すべきである。次の文の述語も動作動詞であるが、「在」は「で」と訳してよいのであろうか。

45. 我在林中散步。

私は林の中で散歩します。(で: ×; →を)

46. 许多人在路上行走。

人がおおぜい道で歩いています。(で: ×; →を)

47. 火车在铁轨上奔驰。

汽車はせんろで走ります。(で: ×; →を)

48. 飞机在空中飞行。

飛行機が空でとんでいます。(で: ×; →を)

この動作動詞は前の「坐る」や「立つ」などと違って、移動性のあるものである。日本語では移動する場所は「で」や「に」ではなく「を」で表すのである。上例では「在」

を「で」と訳したのが間違いであり、「を」と訳すべきである。以上のように、中国語の「在」は日本語の「に」、「で」、「を」に相当するが、そのいずれに訳すべきかは、日本語の述語の動詞によって決められる。「在」による誤用は述語動詞の判断が間違っただと言えよう。

Ⅱ. 「上」に因る誤用

中国人の学習者には「上」による誤用が多い。そしてまったく意識されないままに平気で使われている。たとえば次はその例である。

49. 池塘上有许多死鱼。

池の上に死んだ魚がたくさんある。(の上: ×;)

50. 河上有座桥。

川の上に橋が立ててある。(の上: ×;)

51. 她在脸上擦粉。

彼女は顔の上にお白粉をぬる。(の上: ×;)

52. 他把画贴在墙上。

彼は絵を壁の上に貼る。(の上: ×;)

53. 老大爷坐在椅子上。

おじいさんは椅子の上にすわる。(の上: ×;)

54. 他嘴上叼着香烟。

彼は口の上にタバコをくわえている。(の上: ×;)

55. 他在飞机上看海。

彼は飛行機の上から海を見る。(の上: ×;)

56. 他在路上走。

彼は道の上を歩く。(の上: ×;)

57. 他手指上夹着一支烟。

彼は指の上にタバコをはさんでいる。(の上: ×;)

58. 他把那本书放在书架上。

彼はその本を本棚の上においた。(の上: ×;)

間違ったところは日本人なら子供でもすぐ指摘できる。なぜ日本語訳文に「の上」を入れたのであろうか。たぶん原文にある「上」の文字を日本語になおさないと意味がかわり、何か足りないところが出て来るのではないかと心配したのであろうと思う。

それでは中国語で「上」はどんな意味を持っているのであろうか。『現代漢語辞典』を調べて「上」と関連する部分を抜き出せば、

上: (1) 位置在高处的。(高い所に位する。)

上部、上游(上流)

(2) 由低处到高处。(低い所から高い所へ。)

上山(山へのぼる)、上车(車に乗る)

(3) 用在名词后, 表示在物体的表面。(名詞につき、物体の表面の意を表す。)

臉上(顔)、牆上(壁)、桌子上(机(の上))。

- (4) 用在名词后, 表示在某种事物的范围以内。(名詞につき、ある物事の範囲内の意を表す。)

会上(會議(で))、书上(本(で、に))、报纸上(新聞(で、に))。

(1)は日本語の接頭語に近似するようである。(2)は動詞である。(3)と(4)は名詞につき、日本語の接尾語に相当する。前例の「上」をまとめれば、

- (3)に属するもの(物体表面の意):

池塘上、河上、臉上、牆上、椅子上、路上

- (4)に属するもの(ある物事の範囲内の意):

嘴上、书架上、手指上、飞机上

しかし、誤用文に出る「池の上」や「顔の上」などの「上」は、日本語の文では、〈物体表面〉という中国語文の意味がなくなり、具体的な位置を意味していて、また「口の上」や「本棚の上」などの「上」も、日本語文では中国語文での〈ある物事の範囲内〉の意味がなくなってしまっている。つまり両方の「上」は意味が違うのである。前例は、両者の意味を同じだと思って混同したのである。

一方、日本語としては次の文は正しいとみなされている。

59. 书在桌子上。

机の上に本がある。

60. 在甲板上走。

甲板の上を歩く。

61. 在草坪上走。

芝生の上を歩く。

そこから、外国人学習者が「池塘上」を「池の上」、「嘴上」を「口の上」と訳しても別に驚くべきことではないであろう。

Ⅳ. 中国語の他動詞が日本語になおされて自動詞に变ることに因る誤用

中国語の他動詞が日本語に訳されて自動詞に变る場合が多い。それで問題が出てきて、次のような文が作られる。

62. 着手工作。

仕事を着手する。(を: ×; →に;)

63. 参加会议。

會議を参加する。(を: ×; →に。)

64. 同意这个提案。

この提案を同意する。(を: ×; →に。)

65. 反对干部的特权。

幹部の特権を反对する。(を: ×; →に。)

66. 大家都赞成他的意见。

みんな彼の意見を賛成する。(を: ×; →に。)

両方とも同形語であるが、中国語での「着手」や「参加」などが他動詞なので、あとに来る「工作」や「会议」などはその目的語となる。上例では、日本語文の述語がもとの中国語文の述語と同じ他動詞だと思って助詞「を」を入れたのであろう。次は同形語ではない場合である。

67. 抓住对方的弱点。

相手の弱みを付け込む。(を: ×; →に。)

68. 今天碰见了他。

今日は彼を出会った。(を: ×; →に。)

69. 碰到了意外的困难。

思いがけない困難をぶつかった。(を: ×; →に。)

70. 要战胜困难。

困難を打ちかたなければならない。(を: ×; →に。)

71. 不要诉诸暴力。

暴力を訴えてはならない。(を: ×; →に。)

以上のように、中国語の他動詞が日本語に訳されて自動詞に変わり、目的語も「に」で表される目標・対象語に変わる。だから中国語では他動詞であっても日本語に訳すと必ずしも他動詞にはならない。その場合、まず対応する日本語動詞のタイプを確認する必要がある。そうすれば誤用が少なくなるであろう。

V. 中国語の言語習慣に因る誤用

言語習慣の類似とか違いとかいうと、やや抽象的だと感じられるかも知れないが、次の二例を見ればすぐ分ると思う。もちろん文法的に正しい文であるが、実際は誤用である。

72. 我高兴得跳了起来。

私は跳び上がるほどうれしかった。

73. 他推着车下了坡。

彼は自転車を押して坂を下った。

なぜ間違ったかと言えば、日本人は喜ぶ時に「跳び上がる」のではなく、驚く時にこそ「跳び上がる」のであり、自転車なら、「自転車を押して」と言わず「自転車を引いて」と言うのが正しいのである。次も同じような例である。

74. 我父亲是大学生，母亲是中学生。

父は大学生であり、母は中学生である。

75. 今天风大。

今日は風が大きい。

76. 生活紧张。

生活が緊張している。

77. 他们俩关系不好。

あの二人は関係がよくない。

78. 那个女人作风不好。

78. あの女は作風がよくない。

上例は中国人の考え方や言語習慣にしたがって作られた文であり、「中国式の日本語」とも呼ばれている。74の中国語文の「大学生」、「中学生」は学歴のことであり、75の「风大」、76の「紧张」、77の「关系」、78の「作風」は、それぞれ日本語の「風が強い」、「苦しい」、「仲」、「身持」のことをさすのである。上例を整理すれば、

○父は大学卒であり、母は中学卒である。

○今日は風が強い。

○生活が苦しい。

○あの二人は仲がよくない。

○あの女は身持がよくない。

以上の例を見れば、外国人の学習者としてはただ外国語のことばと文法だけを習うだけでは足りないことが分る。語学と同時にその国の人々の考え方や言語習慣なども知らなければならぬ、ということが分る。

以上、中国人が日本語を習う時に母語から受ける影響をいくつか挙げたが、現実には決してそれだけではなく、ほかにまだまだたくさんあるはずである。母語に由来する影響を見つけること、そしてそれを克服することは教師にとっても、又学生にとってもともに重要なことである。これからも中国人を対象とする日本語教育の最前線に立ってこの種の問題を検討していきたいと思う。

参考文献

- (1) 森田良行『誤用文の分析と研究』
- (2) 穂積見子『中国人学習者によくみられる誤用例分析』
- (3) 国際交流基金『文法』Ⅰ
- (4) 胡振平『日語病句剖析二百例』
- (5) 耿富『談漢語介詞“在”与日語補格助詞「で」「に」「を」的对应規律』（『日語知識』88.9）
- (6) 許淑英『什么叫中國式日語』（『日語知識』85.1）
- (7) 中川正之「翻譯講義」（プリント）
- (8) 文化庁『基本語用例辭典』

条件表現「ば、と、たら、なら」について

張 際 宇

はじめに

筆者は学生に日本語を教える仕事に携わってもう四年たったが、授業中、学生がいつもこういう質問を出す。「先生、『ば、と、たら、なら』の条件表現にはそれぞれどんな違いがありますか、あるいは学生が文を作る時、四種類の条件表現がはっきり区別できておらず、まちがいがよく出てくる。

本文はまず「ば、と、たら、なら」についての条件表現の特徴を説明し、つぎに四種類の条件表現の区別を分析する。最後に学生の誤用文の例をあげて、そのまちがいを分析すると同時に正しいものになおす。

本文は四部分に分けて、書いた。

- 一、各表現の特徴
- 二、四者の区別
- 三、学生の誤用文についての分析
- 四、おわりに

一、各表現の特徴

「ば」の特徴

(1) 超時間的、一般的条件を表す。

ある条件がそなわれれば、いつでも順当な結果が習慣的、反覆的、自然発生的に生ずるという関係を表す。

- 春が来れば、桜の花が咲く。
- 風が吹けば、海が荒れる。
- 2に3をたせば、5になる。
- この辺は9時になれば、人通りがなくなる。
- 赤くならなければ、食べられない。

上記の例を結びつきの一般、個別の観点からみると、これらは一般的な結びつきとすることが出来る。一般的な結びつきというのは、「春がくれば、桜の花が咲く」のように、「春が来る」という前件のもとでは、いつでも「桜の花が咲く」という後件が起こることを示すものである。

また、上記の例は、時の観点からみると、過去、現在、未来のことにかかわりのない、いわば超時間的なものである。

(2) 既定条件を表す。

○見れば見るほどよく似ている。

○考えてみれば、だれにでもできたことかもしれない。

○こうして絵にかいておきさえすれば、だれでもすぐわかるだろう。

○あの人の苦勞にくらべれば、私の苦勞などとるにたりないものである。

○かわいい子どもの将来のことを思えば、なんとしても死ねないと言っていた。

これらの「～ば」は、いずれも既定の順接条件を表すものであるが、前件にある事がらが、きっかけ、根拠、理由などとなって後件を導くものであって、「たくさんごはんを食べたら、体がふとりました。」のように前によって導かれた結果が偶然的、その場かぎりのものと異なる。

宮島達夫氏は論文「バとトとタラ」(『講座現代語』第六巻——「口語文体の問題点」)において前述のことについて次のように言っている。

既定条件でバはおもに一般的な条件を、タラは個別的な条件をあらわす。

a. そのころはいなかへ()いつでも、米のメシが食えた。

b. あるときまたまたまいなかへ()米のメシが食えた。

aのように、何度もくり返しておこることについての一般的な条件をあらわすには、かっこの中に「行っタラ」を入れることもできるだろうが、「行けバ」「行くト」のほうがふつうだろう。逆にある一回かぎりのことについての条件であるbの文脈では「行っタラ」が自然であって「行けバ」は使えないだろう。

(3) 個別的仮定条件を表す。

a. 個別的仮定条件を表す「～ば」とは前件における未成立の事がらを成立したものと仮定し、その条件から導かれる順当な結果が、後件において述べられるという関係を示すものである。

この個別的仮定条件と、超時間的、一般的条件との違いは主に個別的仮定条件の「あなたが行けば、私も行きます」の「行く」という動作は、まだ実現されていないが、これから実現することを仮定しているわけだが、一般的条件の「春が来れば、花が咲く」の「来る」という動作、作用は未来に仮定しているのではなく、時を超越したものとして一般時において仮定しているものと解すべきである。

個別的仮定条件の場合は、特定の場合について、個別的に具体的に言うのであり、一般的条件の場合は、特定の場合をはなれて一般の場合について抽象的に言うのであり、時と場合とにかかわらない恒久不変の法則を言うものである。

b. 「ば」による個別的仮定条件には、「～たら」「～なら」などと比べると、個別的といっても、そこには一般的傾向が相当入りこんでいる。

この事実は反面「ば」が個別的な事がらを仮定する力の弱さを示すことにつながるものである。それは「～ば」による場合は、前件と後件との間に多少とも必然的つながりがあることからきている。「あなたが行けば、わたしも行きます。」の裏には同時に「あなたが行かなければ、わたしも行きません。」といった必然的な意味合いが暗示されている。

また、「～ば」の場合は、「たら」などと比べると、「もし」「もしも」「万一」「万が一」といった、陳述に呼応する副詞の用いられることがわりあいに少ない。この事実も仮定す